

# 矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol. 7



発行日：平成 29 年 1 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 38 回山部会WGを開催しました！

12月16日(金)～17(土)に第38回山部会WGが豊田市足助地区にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関して、現在の進捗状況と地域部会、全体会議に向けた目標を話し合いました。

日時：平成 28 年 12 月 16 日 (金) ～17 日 (土)  
場所：豊田森林組合庁舎、足助きこり塾フィールド、豊田市敷島農村環境改善センター ほか  
参加者：17 名 (事務局含む)



## ◆主な会議内容

### 1. 山村再生担い手づくり事例集について

現在、平成 25 年度に取材を行った団体を再訪し、レポートを作成しています。

#### ①今後のスケジュール

1 月～⇒取材レポートの校正、2 月 21 日⇒再取材集の完成  
2 月 24 日⇒全体会議で報告、4 月中旬⇒山村再生担い手づくり事例集交流会

#### ②山村再生担い手づくり事例集交流会の内容の提案と意見交換

日程：平成 29 年 4 月 15 日 (土) ～16 日 (日)  
場所：根羽村老人福祉センターしゃくなげ (交流会)、グリーンハウス森沢 (懇親会・宿泊)  
内容：取材先の団体の PR タイム (岡森フォレストーズのライブ、天下杉の上演会など)

### 2. 矢作川流域山村ミーティングについて

以下の 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

#### ①流域に関わるお祭りの実施について

矢作川感謝祭について、9 月第 2 土曜、日曜に行いたいと考えています。そのために、1 月から毎月第 4 木曜日に実行委員会を定期開催することになりました。

#### ②流域の森林組合の作業班を対象にしたヒアリングについて

現在、おいでん・さんそんセンターでは、半農半林でプロを目指す人を支援しており、本日取材を行いました。今後は既に日程が決定している森林組合への取材を行います。

### 3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

以下の 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

#### ①「スイスの近自然森づくり」の報告 (豊田市森林課 鈴木春彦氏)

11 月に職員研修の一環としてドイツとスイスにおける視察を行いました。今回は、両国の森林管理の仕組みについて、人材育成に焦点を絞ってご報告いただきました。

#### ②神奈川県山北町における森林とダムと土砂の勉強会について

神奈川県の森林環境税は、年間 39 億円と国内で最大規模を誇ります。その予算の大部分が山北町で活用されており、その実態について 1 月 28 日 (土) に勉強会を行います。

### 4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

以下の 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

#### ①森林資源のフル活用に向けた、スギの用途を広げるビジネスアイデアソンについて

日本の森林の問題を解決するため、スギの用途を拡大する手法の検討を行いました。

#### ②木材の水辺活用の提案について

流域連携テーマである「木づかい」について、水辺の木の活用事例が紹介されました。

#### ③田舎の先生制度について

農村の持つ技術・技能を活かしながら都会のニーズに応える方法が紹介されました。

### 5. 足助・旭地区におけるフィールドワーク

フィールドワークとして、以下の 2 箇所の視察を行いました。

#### ①足助きこり塾

⇒人工林、雑木林、大工塾による製材所やピザ釜を見学しました。

#### ②あさひ森の健康診断報告会

⇒旭地区の森の健康診断報告会へ出席しました。



足助きこり塾の視察風景



報告会の実施状況



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●山村再生担い手づくり事例集について

- ・参加者全員が宿泊するイメージで良いか。(浅田)
  - ▶ 日帰りでも構いません。15日と16日が土日となります。(洲崎)
- ・交流会は事例集Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ全てが対象となるのか。その場合、Ⅰは再取材で伝えているが、Ⅱ・Ⅲはどのようにお知らせするのか(沖)
  - ▶ Ⅰ・Ⅱ・Ⅲすべてが対象となる。事例集のメーリングリストを立ち上げる時に、現在わかっている全取材者のアドレスを登録している。当方から、メーリングリストを使ってアナウンスする。(洲崎)

### ●山村ミーティングについて

#### 《地域に関わるお祭りの実施について》

- ・矢作川感謝祭はこれまで川のメンバーを中心に行われてきたが、来年からは山のメンバーも共催として加わることになった。山側の体制としては矢作川森林ボランティア協議会など、色々な関係団体に呼びかけを行う予定である。二年越し、三年越しのお祭りが、ようやく土俵に上がる権利を得た。(丹羽)
- ・山村再生担い手づくり事例集で培った人間関係をフルに活かせると有意義だ。(山本)
  - ▶ 4月に行う事例集交流会で、矢作川感謝祭の呼びかけを行えるとよい。(丹羽)

#### 《森林組合作業班を対象としたヒアリングについて》

- ・本日は豊田市森林組合常務の青山さんにご出席いただいている。山林の作業員の現状を教えてください。(蔵治)
  - ▶ 以前100人いた作業員は、現在85人まで減少した。高齢の方の退職に伴い、年間3名ほど補充しなければ現状維持ができない。新規募集においては宿舍も用意したが、なかなか定着しないのが現状である。(青山)
- ・現在、森林組合作業班の中堅離脱が問題となっているが、豊田森林組合における主な要因は何か。(丹羽)
  - ▶ 給与などの待遇のミスマッチ、人間関係のミスマッチ、想像していた仕事とのミスマッチの3点だ。(青山)

### ●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

#### 《「スイスの近自然森づくり」の報告》

- ・ドイツの森林面積は日本の半分ほどだが、生産量は2倍に相当する。それは、フォレスターや現場作業員の手際が良いことに加え、機械と人の手を絶妙に使い分けている点であると感じた。(鈴木、河合)
- ・日本の農業高校の教科書では、未だに原木市場を経由して木材が流れるという古い仕組みが示されている。(蔵治)
  - ▶ スイスやドイツでは、将来作業員になりたい人を対象に、日本の農業高校には踏み込めないような高性能な林業機械を実習する場が設けられている。スイスの例では、週4日働いて1日学校で学ぶスタイルがとられており、毎日の仕事の振り返りを全て記録し、先生に確認してもらう合理的なシステムがとられている。(鈴木)
- ・基本的に補助金に頼らない点が、日本の林業と大きく異なると感じた。しかし、本当に成り立つのか。(浅田)
  - ▶ 日本の補助金と大きく異なるのは、人材の育成に使われる点と森林組合のような民間が行う森林施業のプランニングも行政が担う点である。(鈴木)
- ・人工林という概念があまりなく、主に天然林施業という考えなのか。(蔵治)
  - ▶ 確かにそうだが、スイスでは8割が天然更新で、2割が植栽である。その理由の一つに、スイスやドイツは天然更新しやすい物理的な条件がある。一方で、日本では草本相や低木が初期に優占するので、高木に達するまでに相当の時間がかかる。この点において、我が国での応用は難しいと感じた。(鈴木)

#### 《神奈川県山北町における森林とダムと土砂の勉強会について》

- ・この勉強会は、海や川のメンバーにも募集するものであり、年内中でアナウンスしていただきたい。(蔵治)
- ・弊社は近年、神奈川県の水源林を担当する部署から、大量のスコリアの流出について、航空レーザ計測データを使って解析する業務を受託した。詳細については、勉強会で説明したい。(中田)

### ●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

#### 《森林資源のフル活用に向けた、スギの用途を広げるビジネスアイデアソンについて》

- ・多くの街の人間が木に期待するのは、肌触りとか、ぬくもり等の官能機能であった。スギの特徴である「あたたかさ、やわらかさ、軽さ、香り」を十分活用できると考えられる。(今村)

#### 《木材の水辺活用の提案について》

- ・矢作川の本流だと流れがあるため難しいが、ダム湖だと設置しやすいと感じた。(洲崎)
- ・木材は、コンクリートや鉄に比べてもろい印象を受けるが、見た目もいいし、結構丈夫なのではと思う。(浅田)

#### 《田舎の先生制度について》

- ・この制度は、都会の人よりも田舎の人に抵抗があるから、進まなかったのだと思う。(蔵治)
  - ▶ 先生になって都会の人に認められれば、誇りが持てる。持続可能な田舎づくりに結び付く制度だ。(山本)

## 今後のスケジュール(予定)

1月27日(金)に岡崎市(ぬかた会館)にて第8回山の地域部会を開催します。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

